

はじめに

わが国を代表する21の歴史舞台を時系列に結び、「日本史のタイムトリップ」が可能な「入門コース」を設定。これを核として「歴史文化を活かした特徴ある地域づくり」「観光振興」「世界への日本文化の発信」に取り組もう。

「歴史街道計画」の研究は1986年に「世界を考える京都座会」で始まった。

88年に発表された「歴史街道づくりの提言」を受け、91年には65の地域・企業・団体などによる「歴史街道推進協議会」(以下、協議会)が発足。「歴史街道マスタープラン」、「同・マスタースケジュール」(92・3年)を推進指針に、3年に一度中期計画を策定し、広域連携事業に取り組んできた。

本書はその「第五期計画」であり、実施時期を概ね06年から08年に想定したものである。

計画はこれまで各地域・団体や市民の参画と協力により、概ね順調に推進されてきた。

会員団体数は現在161。各位の参画と協力の下、「官民」「地域」の連携組織ならではの事業が数多く実現している。

例えば「歴史文化を活かした特徴ある地域づくり」の分野では「歴史街道モデル事業」が現在50地区。「観光振興」面ではテレビ番組が3000回以上。「世界へ日本文化の発信」に関しては海外フォーラムが、のべ50都市で実施されてきた。

当計画をモデルに同種の連携に取り組もうという地域・団体は、国内はもとより広く海外にまで及び始めている。

しかし、時代環境が刻々と変化していく中で、現行路線を踏襲しその改善やわずかな拡大を追い求めるだけでは、計画本来の目的への到達や、組織のさらなる活性化は難しい。

当「五期計画」がスタートする06年は協議会発足から15年という重要な節目の年に当たる。

ここまでの活動を大きく総括するとともに、改善すべきを改善し、次の15年における発展プランを考える気運が高まった。

経済・社会情勢が大きく変化している中、計画の継続発展性を確保していくために不可欠なのが新しい工夫とアイデア、そして大きな夢である。

その意味で、本書では従来の中期計画のように、従来路線の延長線上にある、3年間で「できそうな」事業ばかりを記載することはしなかった。

第五期として位置づけられるこの3年間で、ここまでの蓄積を大きく花開かせることへと取り組んでいくことの出発点、また、本計画をここまでの総括、長期の夢や目標をふまえた「アクセレーションプラン」として位置づけたいと考えたからである。

一方で必要なのは、ここまでの活動で生じつつあるマイナス要素を、明確な意識を持って除去、克服していくことである。

数多くの事業が実現し今に継続されてきている反面で、「理念」から「実践」への過程で、当初の「志」の部分が、次第に曖昧なものになってきている点は否めない。

また、活動の定着の裏側にはどうしても「弛緩状態」が生じる。

個別の事業がそれなりの成功を収めれば収める程、各地域・団体の計画への主体的参画意識がうすまり、「協議会に一任」するような雰囲気も生まれがちになる。

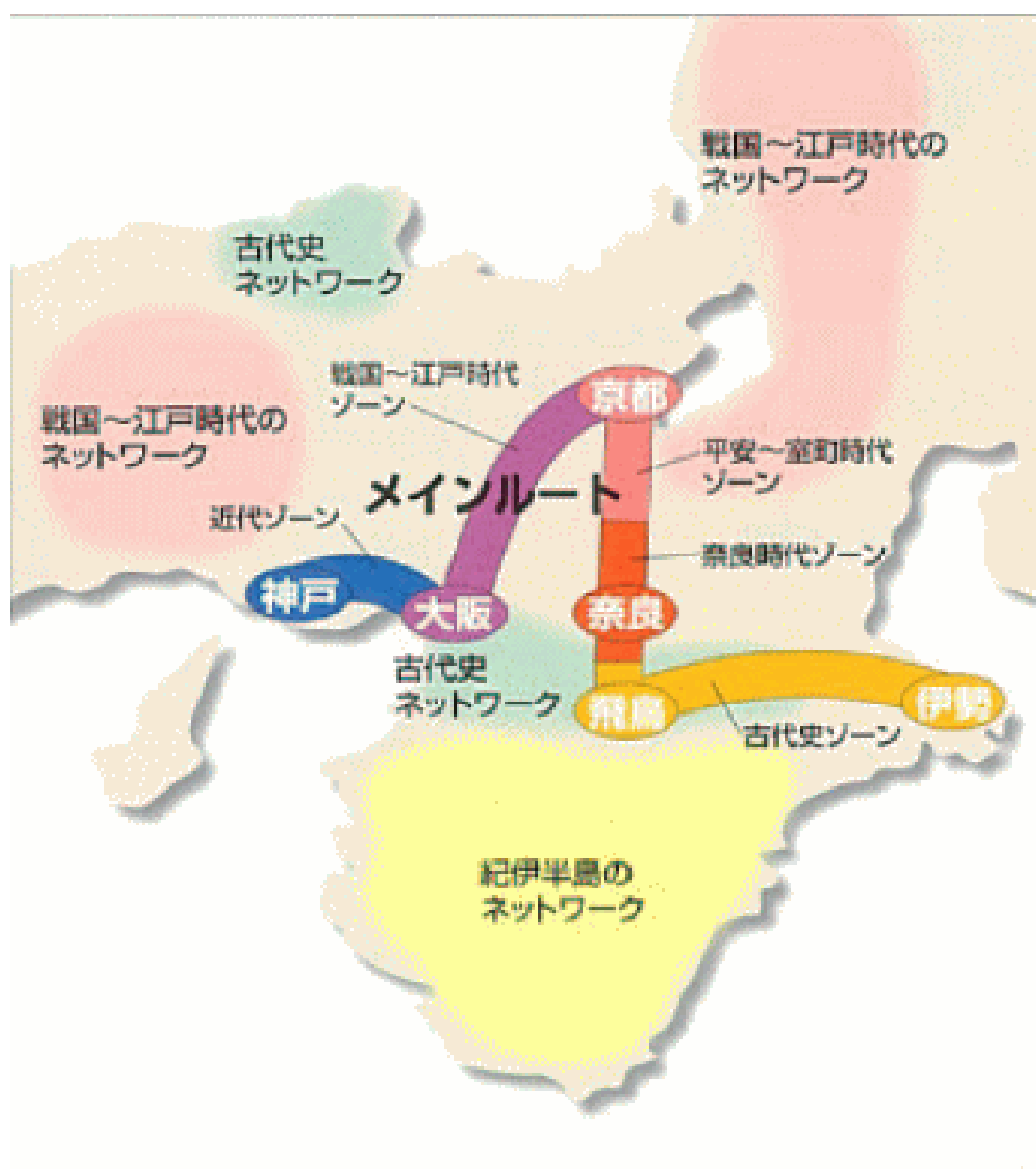
官における財政難や民におけるメセナ活動の低迷などによる、活動資金の減少も懸念されるが、一方では、国際化社会・情報化社会の進展、国による「美しい国づくり」気運や地方を含めた観光熱の高まり、旅行・健康・文化・ボランティアなどを志向する人々の増加といった「追い風」もある。

協議会の設立15周年を期に、これに関わっている会員自らが計画の意義・目標・夢そして可能性を再認識するとともに、計画への賛同者を増やし、さらなる気運の盛り上げを図っていかねばならない。

本書の策定に関わられた各位の協力に感謝しつつ、これを1つのジャンピング・ボードとして、「歴史街道」計画の新たな15年の飛躍に、ともに取り組んでいただくことを心からお願いしたい。

2006年6月

歴史街道推進協議会



歴史街道のメインルートと3つのネットワーク